

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2016年10月3日 発行

松蔭中学校・高等学校
校長 浅井直光

衣替えの10月 気付きと学びの修学旅行・校外学習を

ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから11キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。そして二人でこの一切の出来事について話し合っていた。話し合ったり論じ合ったりしているうちにイエスご自身が近づいて彼らとともに道を歩いておられた。(ルカによる福音書 24:13~15)

蒸し暑い毎日が続いています。10月1日に冬服への衣替えの予定でしたが、10月11日(火)に延期しました。昨年も10月第2週に遅らせましたので2年連続の措置です。夏服への衣替えは1997年より、5月の第3土曜の次の月曜日(生徒手帳「服装規定細則」)としていますが、冬服への衣替えも気候変動に対応する必要があるのかも知れません。いずれにせよ校内は一気に落ち着いた雰囲気となり、秋の気配が漂います。先月から第2期の土曜日英検対策講座・中1英会話講座がスタートしています。英検・TOEIC全校受験は来年1月ですが、今月の校外受験でも2級はもちろん、準1級、1級にチャレンジする生徒がいます。高校3年生では、各大学への特別指定校推薦の校内推薦者が決まり、その他の推薦入試や松蔭大特薦の準備をすすめているところです。目標に向けて地道な努力を期待したいと思います。

中間考査終了後には、中3・高2修学旅行と他学年(高3を除く)の秋の校外学習を予定しています。中3修学旅行は1996年以来、長野県の戸隠高原へのスキー修学旅行でしたが、今年度より行き先を北九州方面に変更しています。当初の計画では熊本市内や阿蘇山も訪問する予定でしたが、熊本地震のためコースを変更し、北九州の自然と歴史並びに長崎での平和学習をプログラムの柱としました。北九州は旧国名でいうと肥前、筑前、筑後にあたり、うまいを「うまか」という九州方言のうち肥筑(ひちく)方言が話される地域です。この地域の豊かな自然に触れるとともに、雲仙普賢岳の噴火による火砕流の被災地で自然の脅威を再確認します。北九州は中国・朝鮮半島から多くの文物を受け入れていた古代を経て、中世以降はアジア交易や南蛮貿易が盛んに行われ、キリスト教が伝来し信仰が広がった地域でもあります。班別自主研修を実施する長崎は、鎖国下の江戸時代には海外への窓口として、幕末には開港地の1つとして多くの外国人が滞在していましたが、この地での繰り広げられた国際交流の歴史を知ることは、グローバル社会での異文化交流のあり方に役立つことがあるでしょう。さらにこの被爆都市で核兵器とその惨禍について学び、戦争と平和について考える機会を持ちます。中3の総合的学習のテーマは「平和」ですが、修学旅行の事前学習として広島で女学校時代に被爆された方をお招きしてお話を聞くことになっています。

高2修学旅行は長年にわたり、岩手県や青森県を中心に北東北の自然に触れることや体験学習をプログラムの柱としていました。大震災直後の3年間は行き先を変更しましたが、復興状況や原発事故

による放射能、提供される食材へのその影響など安全面の確認をした後、一昨年から再び東北に戻りました。

なぜ東北なのか?と問われることがあります。日本は狭い国土のなかで多様な地形や気候によって、地域ごとの固有の歴史・伝統が形成され、今なお各地域文化が成立しています。テレビのバラエティ番組「秘密のケンミンSHOW」では、各地域独特の食物や食べ方や習わしなどをおもしろおかしく紹介していますが、国土の狭さから見て世界でも珍しい地域文化大国のように思います。

家族や友人との旅行なら北海道へひとつ飛び、ということになるでしょうが、多様な地域文化のなかで日本の原風景が残っているとされる東北には隠された魅力があります。観光資源という視点では、東北6県の温泉地の数は北海道の2.5倍、3カ所の世界遺産(北海道は1カ所)、国指定文化財数は北海道の6倍です。地域文化の中心である「食」の領域でもアピールポイントが強く、米や肉、野菜や果物、魚介類といった全国区の代表的特産品が各県にあります。北海道と同数の9空港があることで、東京・大阪などの大都市、京都・奈良・鎌倉の古都に飽きたインバウンドと呼ばれる外国人旅行者の次の目的地は、東北地方になるだろうという声も聞きます。

ところで、津波で大きな被害を受けた岩手県の三陸海岸の中心に位置する田老(たろう)や浄土ヶ浜を訪れることもあり、東北方面再開後の修学旅行には、自然災害や命についての学ぶという観点がありました。考えてみるとこの地域の津波被害は数百年前から繰り返し記録されています。豊かな自然を見ながらその一方で、自然の脅威としての災害の歴史や防災の観点が不足していたことは、この地域の歴史や文化を学ぶという意味では片落ちであったとも言えましょう。

保健室の相馬先生は、大震災発生当時は東京都立高校に勤務しておられましたが、復興支援教員として2年にわたり派遣され、宮城県女川町など被災地の学校で養護教諭として働いておられました。被災地での経験を生徒に話してくれませんか、とお願いしていましたが、先週の朝の全校礼拝でこれが実現しました。被災地で仕事をするなかで感じられたことや現在の思いを話していただきましたが、最後に次のことを実践してほしいと仰いました。

「大災害が起こった時には自分のことは自分自身で守ること。これは、津波の犠牲者に大人の間違いの指示に従い命を落とした子どもが大勢いた学校があったことの反省から。SNSやツイッターなどでいろいろな情報に触れることになるが、それらを批判的に見る力を日頃からつけておくこと。家族に日頃の感謝の気持ちを伝えること。当たり前の日常はかけがえのないものであること。今日という一日を大切にすること。」

高3生は昨年の修学旅行の経験があり、原発事故からの避難者の講演で学習を深めました。宗教部のボランティア活動で被災地を訪問した生徒もいます。皆真剣な表情で耳を傾けていました。

松尾芭蕉が奥の細道の旅へと歩を進めたのは、江戸時代の感覚ではすでに老齢にさしかる45歳の時です。ずっと若くて研ぎ澄まされた感性を持つ女子高生がこの地域の「自然・文化・いのち」を五感で体験し、気付きや学びの旅となることを願っています。

中1・中2・高1の日帰り校外学習ですが、行き先については各学年ごとに連絡があります。またPTA文化委員会主催の保護者親睦バス旅行は、バス2台で近江八幡方面を訪れます。ちなみに高3生は自宅学習日で、希望者は実力テスト受験日となっています。(裏面へ続く)

ICT教育の推進へ 各教室に無線LAN導入

夏休み中に各教室の無線LAN環境を整備しました。教室の黒板の上には電子黒板に加えて無線LAN機器が新たに設置されていることに気付いた生徒もいるかもしれません。今年度についてはまず教員が電子黒板を使って授業をする際に利用できるようにしました。将来的には生徒も利用できるようにしたいと考えています。各校で授業でのタブレット使用などICT機器利用が進められていますが、本校でも今年度よりICT教育推進のための部署を発足させ、設備の整備と様々な学習利用についての研究と準備を始めています。タブレット利用に関する教員研修や、アクティブラーニングに適した多目的室の整備なども予定しています。ハード面の整備とそれを扱う教員の能力を高めることが求められています。

生徒にとって中高時代にICT機器の利用法に習熟し、得られる情報についての科学的な理解を深め、その情報の中身を活用する力を育成することは必須となっています。同時に情報化社会へ参画する態度を一人ひとりが情報モラルとしてしっかりと身に付けなければなりません。中高生の情報モラルについての意識は決して高くはないことを、様々な事件報道により実状として知ることができます。いつでもどこでもコンピュータ環境が整っており、利用できることを表すユビキタスという語がありますが、ユビキタス社会に向かおうとしている今、学校では生徒・教員ともどもが利用法とモラルの両方をしっかりと高める必要があります。市民社会での自由と責任、権利と義務は一体であるように、ICT技術と情報モラルもしかるべきかと考えています。

「女子高生が社会を変える」Blue Earth Project で高1生徒が始動

進路確定後の高3生の3学期の活動の一つ、Blue Earth Project（以下BEP）は環境啓発活動で、科学学習を越えた「主体的な学び」を実現する取り組みとして実施されてきました。これまでは高3のみの取り組みでしたが、今年度は高1でも実施することになりました。1学期末にはオリエンテーションを実施し、17名の高1生徒が「BEP チーム Y」を発足させました。「Y」はYouthの頭文字からとったとのこと。活動テーマは「ハロウィンスイーツ」。食品ロスの問題を取りあげ、廃棄対象となっている規格外の黄金芋をペーストにし、それを原料としたエコなパンを商品開発するプロジェクトです。ベーカリーショップ「ルパン神戸北野」とのコラボで、採用案は商品化されハロウィンの時期に店頭販売される予定です。17名の生徒は3チームに分かれて話し合い、「もったいない」を合い言葉により魅力ある商品を考え出しました。2学期はじめにはショップ担当者へのプレゼンテーションを行いました。

なお、高3の生徒は海洋環境の啓発活動に取り組み、沖縄での活動も予定しています。県内でも各高校が、企業や行政などと一緒に新たな商品やサービスを生み出し、社会につながり学ぶ取り組みを積極的にすすめています。熱心な学校は女子校が多いようです。松蔭BEP発祥の「女子高生が社会を変える」のキャッチフレーズの理念が広がりつつあることを実感しています。保護者の皆様にも生徒たちの取り組みに声援を送って頂きますようお願いいたします。

兵庫県立美術館との連携協定 高校生も入館無料に

兵庫県立美術館（*）と学校法人松蔭女子学院はこの度「キャンパスパートナー」協定を締結し、地域連携を強化し、相互交流を推進することで合意しました。本校の中学生は学校で配布されたコロナカードを持参すると無料でしたが、高校生も10月より入場無料となります。

神戸市中央区のHAT神戸にある兵庫県立美術館は、日本を代表する建築家である安藤忠雄氏の設計による美術館です。兵庫ゆかりの作家の作品が数多く展示されていますが、戦前、本校の美術講師をつとめた小磯良平画伯の作品約500点も所有しています。館内の小磯良平記念室には、松蔭の冬服をモチーフとして描かれたと言われる「斉唱」をはじめ、20点程の作品が常設展示されています。

今年7月には、コーラス部が美術館エントランスホールでミニコンサートを開催しました。プロジェクターに映された「斉唱」をバックに「アベマリア」など宗教曲、「赤とんぼ」「ふるさと」などの日本の童謡や唱歌、そして「心のふるさと松蔭」と「校歌」を披露し大変好評でした。

今回の協定のおもな内容は下記のようになっています。

- ・兵庫県立美術館、県美プレミアム展（常設展）の高校生入場料が無料。
- ・主催する特別展では、区分に応じた観覧料の団体料金適用。
- ・横尾忠則現代美術館については、平日に高校生無料見学日を設定。
- ・美術館学芸員（横尾美術館を含む）による解説・講義の実施など。

見学の際には高校の身分証明書を持参してください。保護者の方は残念ながら対象ではありません。

（*）兵庫県立美術館（神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1番1号[HAT神戸内] TEL:078-262-0901）

保護者対象「土曜のおしゃべりの会」

今年度から始まったこの会は、1学期には2回開催され延べ16名のお母様方が出席されました。学校からは2名のスクールカウンセラーと校長の私、教育カウンセリングに詳しい教員1名の4名が参加し、スクールカウンセラーから「ストレスや疲れ」、「聴くこと」をテーマにお話を聞いた後、ざっくばらんに互いの思いを話し合いました。私自身にとっても心を開いて、保護者の皆様の思いをくみ取らせていただく場となっています。お子様の松蔭入学というご縁を頂いたわけですから大切にしたいと考えています。

今回は10月22日（土）午前を予定しています。後日、ご案内のプリントを配布いたします。お時間があればいちどお立ち寄りいただければ幸いです。

なお、以前もお知らせしましたが、相談室はスクールカウンセラー2名の体制で、平日は10時から17時まで在室しています。どうぞお気軽にご連絡をお願いします。